

家庭科の「手縫いボランティア」

- 2校時連続で行われる5年生の家庭科の時間に、地域のボランティアの協力によって、「ボタンのつけ方となみ縫い」の実習授業が行われました。
- 富士見小学校では以前から家庭科のミシン実習の際に支援を実施しており、近年、児童や教師の声を受けて手縫いの授業への支援が始まりました。
- 児童が班に分かれて作業する中、各班にボランティアの方が一人ずつ付く形で、個々の児童をサポートしていきました。苦手意識のある児童に対して丁寧に教えたり、次に何をすればいいのか教えたりすることで、授業が滞りなく進行していました。
- 児童はボランティアの方のアドバイスに熱心に耳を傾けて作業を進めており、授業後は「玉結びのコツを教えてもらった」「家庭科は嫌だったが、丁寧に教えてくれるので好きになった」「わかりやすくて楽しい」と嬉しそうでした。
- ボランティアの募集は積極的な声掛けのほか、年に2回の活動の便りを出すことで、多くの方が児童に関心をもってもらえるようにしているそうです。



教師による全体指導



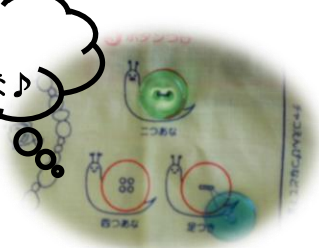
ボタンの付け方指導



なみ縫いの指導



上手に
できるかな♪



【学校の声】

5年生で初めて学習する家庭科。多くの児童が「手縫い」に苦手意識を持つ中、担任一人では安全面に目を行き届かせることは容易ではなく、ボランティアの協力は大変ありがたいです。一人一人の技能に合わせて優しく丁寧に教えてくださるので、児童は安心して作業に向かい、楽しく活動することができました。日程調整や参加者の募集は地域コーディネーターが中心となって動いてくださるので、とても助かっています。

【地域協議会の声】

ボランティアが主軸となるのではなく「先生の授業をサポートする」ことを大切にしています。

家庭科の苦手な子どもが楽しそうに取り組んでくれるお手伝いができることがやりがいになっています。

また、学年の異なるボランティアが集い、地域全体で子どもたちを温かく見守る活動のひとつとなっています。

【いいね！】

授業を通して教師と児童のタテの関係だけではなく、児童と地域の大人が雑談を交えながら楽しくナナメの関係を築けている。

家庭科に苦手意識を持っていた児童も、地域の大人たちのサポートによって、積極的に取り組もうとする姿勢が見られた。

